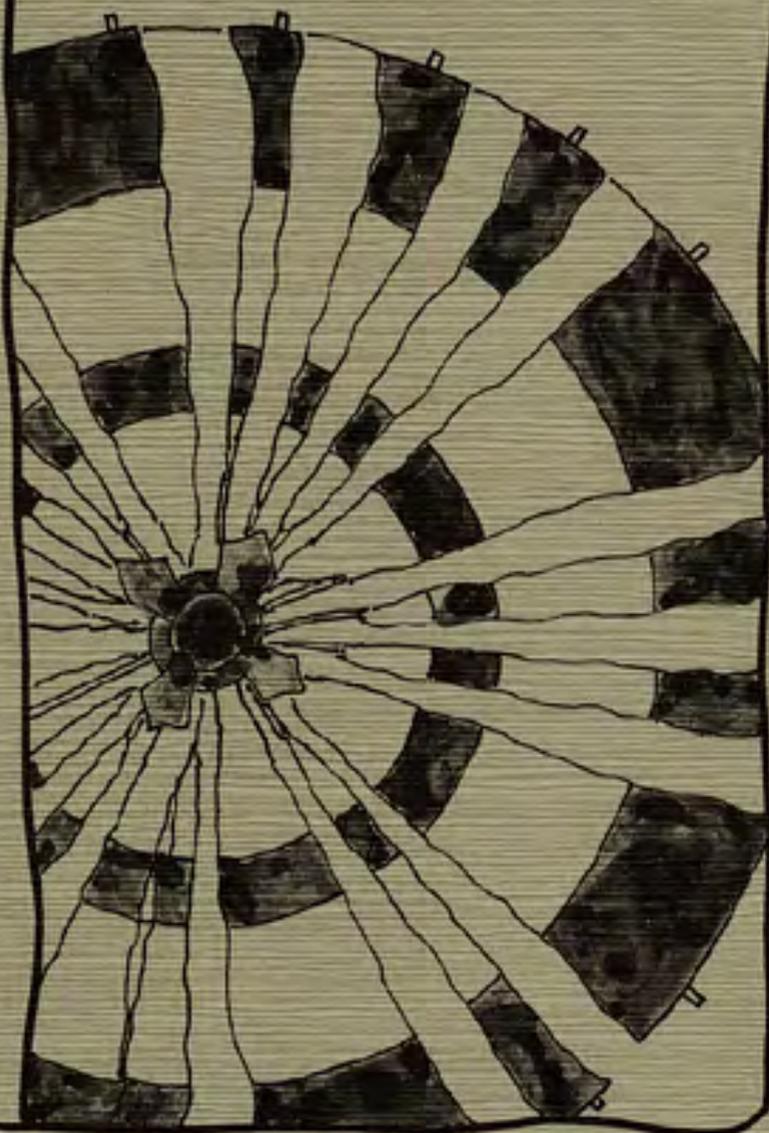


やぶれ傘



一一〇号

二〇一九年十月

聞きとれぬままにうなづきある夜長 根橋宏次

敗荷の隙間隙間が夜にひかり 大島英昭

ちちろ鳴くこつちを向いてゐるやうに きくちきみえ

灯の下にルパン・ホームズ黒葡萄 青谷小枝

風少し狗尾草の揺るるほど 廣瀬雅男

十六夜の月眺めつつ貴腐ワイン 瀬島酒望

蓮の実を見て思ひ出す豚の鼻 丑久保 勲

こほろぎがメトロの駅の壁の際 藤井美晴

目障りにならぬ鉄塔今日の月 渡邊孝彦

試し掘りの男三人芋の秋 白石正躬

もう雨か森の深きに秋が来て 安藤久美子

裏道はこんな静か秋の午後 小山よる

漬けものは何にしようか零余子飯 天野美登里

気休めの水遣りにゆく夏の畑 秋山信行

空つぼのリフトが動く赤とんぼ 有賀昌子

抄 集 句 傘 ね ぶ や
選 夫 紀 崎 大

凌霄花モスクの壁をよじ登る 松村光典

うろこ雲目が乾くまで見てゐたし 中島和子

信号を待つやこの風あきのかぜ 貫井照子

門ごとに迎へ火を焚く漁師町 野口希代志

長雨の茄子は歪になつてゐる 萩原久代

皿に置く匙音ひとつ秋の夜 武藤節子

女子だけでカヌーを運ぶ夏の海 森 美佐子

ブナ林をハイカーたちの夏帽子 山本久枝

川下る 浚漈船へ大西日 湯本 実

アルバイト漫画見ながら夜食たべ 安齋正蔵

南瓜割る菜切りの背跡手のひらに 泉 一九

稲妻しきり懐中電灯そばに置き 亀岡睦子

稲架低く組んで海辺の棚田かな 倉澤節子

あるはずの断崖絶壁霧のなか 佐藤稲子

のぞきこむ新聞受けにいぼむしり 篠崎志津子

雪 迎 へ

大崎 紀夫

蠅叩先の反りたるまま吊られ
鶏小屋にばさと羽音日の盛り
散らばつてゐるかに群れてあめんぼう
ひまはりの種採る午後は雲薄く
提灯に雨降つてゐる盆やぐら

庭を見て秋の蠅虎を見て
採られざる南瓜てらてらしてみたる
赤のまま畑土乾き道乾き
波ざばとくるとき雀蛤に
梨畑すぎれば道はのぼり坂
貴船菊あかるし魚板打つときは
雪迎へ去つて棚田のしづもれる

夜 長

根橋宏次

返事してからだをまはす夜の秋
水底に豆腐がひとつ蟬しぐれ
白波の沖へ向けられ茄子の馬
天高したまにしくじる曲芸師
新松子さざなみのあと水平ら
さらさらと草の吹かれてゐる厄日
覗かせてもらふ毛鉤の箱は秋
聞きとれぬままにうなづきゐる夜長
はればれと秋刀魚を焼いてゐたりけり
読みをはるころにひと雨つづれさせ

芋あらし

大島英昭

昨夜の雨含んでどつと草いきれ
うつすらと日が見えてゐる稲の花
自転車が止めてありけり芋あらし
豚草の道をとほつて鉄工所
何雲といふでもなくて秋の雲
ころころと湧き水流れ黄釣り舟
日蔭よりすぐの葉つばに鬼やんま
すれ違ひできぬ道幅穴まどひ
賢治忌の空晴れ渡る山ぶだう
敗荷の隙間隙間が夜にひかり

ちちろ鳴く

きくちきみえ

カナブンの飛ぶには狭き四畳半
崩すだけ崩してしまふかき氷
遠花火けふは東の方に音
短夜の半分過ぎてしまひけり
カラス来てをり緑蔭を同じくす
蟬穴にうまくおさまる傘の先
台風一過見知らぬ猫の現はるる
ちちろ鳴くこつちを向いてゐるやうに
秋蝶の犬鳴く方へ去りにけり
稲架かけしばかりの色をしてゐたる

黒葡萄

青谷小枝

挨拶の初め終はりに云ふ暑さ
切れて行くサーブ揚羽は高く飛び
馬肉屋の錆看板の灼けてをり
空振りも力一杯雲の峰
ゴム草履ぺたぺたアスファルト灼けて
見返しに覚えのサイン夜の秋
新涼の笑へば二本、づつ乳歯
沢枯梗傘さすほどでなき雨が
ただ広き出城の跡を赤とんぼ
灯の下にルパン・ホームズ黒葡萄

狗尾草

廣瀬雅男

呼び込みの声炎天のアメ横に
遠富士に夕焼雲のひとかけら
前山は今つくつくしつくし
法師蟬眼鏡外して聴きにけり
赤のまま更地となりし屋敷跡
真つ白な月の出て居る台風過
コンビニを出て開きたる秋日傘
流れより暮れゆく土手の曼珠沙華
風少し狗尾草の揺るるほど
富士塚に登山口あり木の実落つ

新走り

瀬島酒望

今は無き店の燐寸で花火点け
箱庭に簡易トイレが置いてある
角曲がるタンクローリー日の盛り
空蟬は木の根方にも枝葉にも
秋暑し水陽炎がすだじひに
階段はビルの右端酔芙蓉
軽く炙つて万願寺唐辛子
新走りつまみは帆立貝柱
看板に顔がでかでか秋暑し
十六夜の月眺めつつ貴腐ワイン

甘酒

丑久保勲

無印のベトナム製の夏帽子
柿の葉の音立ててゐる夏の雨
北窓の風鈴の音二つ三つ
ヤブカラシ電話線より電線へ
蟬時雨輪切りトマトに塩ふつて
紙箱の甘酒すする午後三時
蝟螂の一間飛んでそれつきり
けふもまた吠えかかる犬白木槿
黄が宙に浮くがごとくに女郎花
蓮の実を見て思ひ出す豚の鼻

かやつり草

藤井美晴

雨上がる欠けて黄ばんだ月が出て
手に取りてやはらかすぎる桃にほふ
すずかけの幹が臭へり秋の雨
月の出ぬ夜なりおしろい花咲いて
夕菅のめぐりひたすら笹ばかり
ひとところ白し無月の斑雲
街騒を過ぎたるあたり昼の虫
駅前のも更地かやつり草だらけ
土手に数珠玉対岸に山羊のこゑ
こほろぎがメトロの駅の壁の際

栗 林

渡邊孝彦

校門の郵便受けの灼けゐたる
炎昼の畑の真中に井戸ポンプ
オクラ咲く下の田んぼに風が来て
盆用意何か浮き浮きする心地
秋夕焼飽かずに浜の砂遊び
学校の花壇に溢れ吾亦紅
虫の声熊手ぼうきの並ぶ店
目障りにならぬ鉄塔今日の月
十六夜や電車往き来のガード上
鉄塔が左右に聳え栗林

芋の秋

白石正躬

かたつむり今日は朝から青空ぞ
口に余るトマト横からかじりけり
青柿のよく落つる日となりにけり
台風の風と雲とが川渡る
枝豆をこんもりと盛る小皿かな
朝月のまだ見えてゐる草の花
試し掘りの男三人芋の秋
草鼠つけてさつさと歩きゐる
秋風を分け川中へ渡しし船
法師蟬二三度鳴いてそれつきり

秋野菜

安藤久美子

菓子包む和紙で鶴折る終戦日
秋光がよし万華鏡コレクター
続きぬるテニスのラリー蚯蚓鳴く
白壁は更に真白に虹矧鳴く
爽涼や沈金の盆勧めらる
鉛筆を尖らせて書く秋の季語
無花果を剥かずに食めば靴の音
小鳥来る図書館までの並木道
秋野菜簡単レシピ参考に
もう雨か森の深きに秋が来て

秋の午後

小山よる

秋灯ばかりに重たきてティーカップ
秋雨の音で目覚めるゴミ出す日
太つちよがランニングする残暑かな
踏切の脇の草むら虫やたら
栗饅頭ごろんと床へ秋の宵
長き夜や腕の血管うねうねと
うとうととページをめくる夜長かな
ビル街に小さな橋と秋の空
秋うらら地図を持たずに知らぬ町
裏道はこんなに静か秋の午後

零余子飯

天野美登里

校庭の花壇に雨の滑莧
冷やかに墓を点す火風が消す
道端の小石を蹴つて竹の春
菊芋が咲いて畑があかるくて
漬けものは何にしようか零余子飯
木の影は家の中まで障子貼る
滑走路を烏が歩く秋暑し
浜木綿の実に潮風と波の音
山かげに近く鶴上戸の実
溝川の流れに小枝秋茗荷

夏の畑

秋山信行

垂幕に勝訴の二文字夏まひる
夕暮の田面を掠め夏つばめ
凌霄や今は知らざる人の住む
炎昼の畑に鴉の鳴きつづけ
藁葺の屋根に菖蒲の咲くお寺
梅の実を盗るなど札の立つお墓
気休めの水遣りにゆく夏の畑
草むしる尼は時をり背を伸ばし
空つぽの犬小屋に大西日かな
秋立つやテトラポットに波くだけ

赤とんぼ

有賀昌子

梅の実を漬けて梅酔のまだ三分
リフト小屋閉ざし一面夏薊
夏の雲ふと過ぎし日の父のこと
空つぽのリフトが動く赤とんぼ
吹かれぬる糸のころ草や波の音
秋に入る喜寿を節目に終活を
尾瀬ヶ原色づき初めし草紅葉
三姉妹の嫁ぎし家に芙蓉咲く
サンダルで菜園へ行く今朝の秋
水二本買って重たき厄日かな

イスタンブール

松村光典

飛んで飛んでイスタンブール秋の空
満月のドナウ川畔に坐りゐる
秋風やドナウに浮かぶレストラン
餌をくれと白鳥われに寄りにけり
焼き栗とトウモロコシを食べ比べ
凌霄花モスクの壁をよじ登る
アンカラはたんぽぽ盛る九月かな
道沿ひのほほづき熟れて揺れゐたる
あげは蝶あたまにひらり影つくる
補聴器を失くして憩ふ秋の夜

◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン8	瀬島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン8	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
12月	2日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン5	丑久保 勲
	3日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン2	瀬島 孟
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	荒川土手など	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	28日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	28日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月15日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所はJR武蔵野線・戸田公園駅改札を出たところ。

吟行地は荒川土手と戸田漕艇場。

句会場は武蔵浦和コミセン・第4集会室。

◎連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856